

R4年度 ル・ソラリオン綾瀬 事業計画書

1. 施設理念

- ・ ご利用者の尊厳を守り、安全に配慮しその有する能力に応じ自立した日常生活の支援をします。
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で安心して快適な日常生活が営めるよう「生活の質」「介護の質」を基本とし、地域で信頼される介護サービスを提供します。

2. 施設方針・テーマ

テーマ 「笑顔」 ～相手を思う心優しい介護～

- ・ 人として尊厳を守る介護
- ・ 笑顔で安心出来る介護サービス提供
- ・ 専門性を活かした認知症高齢者ケアの提供
- ・ 地域福祉の拠点施設としての活動

3. 実施事業

- | | |
|--------------|--|
| (1) 介護老人福祉施設 | 定員 160名 (ユニット型個室 120名)
(従来型多床室 40名) |
| (2) ショートステイ | 定員 24名 (ユニット型個室) |
| (3) デイサービス | 定員 24名/日 |
| (4) 居宅介護支援事業 | |

4. 重点目標

- ・ 一人ひとりを大切にし、毎日を楽しく、安心、安全に日常生活が送れるような支援の充実を図る。
- ・ 「地域において求められる施設」とは何かを考え、社会資源の活用や地域貢献を積極的に行う。

(1) 人材育成と職場定着

①働きやすい職場環境づくり

- ・ 業務を見直すことにより職員の負担軽減を図る。
- ・ 働きがいのある職場を目指し職場環境改善に取り組み。
- ・ 新入職員とのコミュニケーションを図り、早期離職を防ぐ。
- ・ 法人が定めている法人配置基準を満たす人員を確保し、職員の負担を防ぐ
- ・ 教育体制を充実させて、技能の向上を図る。
- ・ 目標管理を活用した職員の育成

②研修の活用による職員の育成とスキルの向上

- ・ 必要な研修の検討・参加しやすい研修の企画、レジュメ・リバーの有効活用を行い、職員の参加率を上げることににより、知識・技能の向上を図る。
- ・ オンライン研修による外部研修を受講できる環境を整備し、いつでもどこでも知識や技術の収集ができるようにする。
- ・ 介護福祉士試験の受験資格のない職員に対して、介護実務者研修の受講を支援し、受験のための環境を整える。

(2) 利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

①利用者が穏やかに過ごせる環境づくりと安全な生活の確保

- ・ 認知症の基礎理解を行うことで、認知症の人を主体とした介護ができる（認知症の人の視点に立った介護）
- ・ 食事の楽しみを提供する。（イベント食を取り入れる）
- ・ ご利用者の安全な生活を確保する。
ヒヤリハットの提出と基本の安全な介護を行うことで、レベル3以上、特に介護中の事故を減らす。
- ・ ご利用者の要望に応じた余暇活動の企画の工夫と実施
- ・ コロナ禍の影響における楽しみの減少やADL低下を防ぐ取組として、機能訓練の新たな展開、新たな行事の考案やレクリエーションを実施する。

②個別ケアの実施を目指す。

- ・ 記録を充実させケアに反映する。
- ・ ご利用者個々の状態、意向、生活リズムに合わせたケアが提供できるよう、定期的なミニカンファレンス・ユニット等で検討・実施をする。
- ・ 各フロアのケアの情報共有・検討をし、施設全体のケアの向上を目指す。
- ・ ご家族にご利用者の様子を伝え、ケアの理解・協力を深める。
- ・ 個々の能力に応じた生活の質を高める支援をケアプランに沿った支援を行う。

③チームケアの充実、連携の強化

- ・ 多職種が共働して利用者のQOL向上を目指す。
- ・ ワイズマンケア記録を活用し、チームとしてケアの共有・検討・実施をする。
- ・ 加算取得の継続、必ず多職種で連携しながら取り組む。
 - ・ 科学的根拠に基づくアウトカム評価を取り入れ LIFE によるデータ提出を行う。
 - ・ 排泄支援・・・排泄委員会を中心にスクリーニングを全利用者に展開する。
 - ・ 褥瘡マネジメント・・・褥瘡委員会を中心に取り組みを強化し褥瘡発生を防ぐ。
 - ・ ADL 維持・・・機能訓練指導員を中心に、更に ADL の維持向上を目指す。
 - ・ 低栄養リスク改善・・・管理栄養士を中心に、リスクの改善を行う。

(3) リスク対策（感染・安全・災害等）

① 新型コロナウイルスに対する感染対策の徹底

- ・ 新型コロナウイルス感染発生に伴う運営方針、職員行動基準を遵守し感染対策の徹底をはかる。
- ・ ゾーニング基準表に従い、決められた手順に基づく感染対策を行う。
感染拡大後の事業継続計画（BCP）を作成し、研修・訓練を実施する。

② 介護事故の分析・予防・再発防止策の徹底

- ・ 大きな事故が発生した場合には緊急事故防止委員会を開催、現場検証・原因究明をし、早めの再発防止策の決定・施設内の周知に努める。
- ・ 事故ヒヤリハット報告書を充実させ、分析・予防・再発防止に取り組む
- ・ ご利用者・ご家族からのご意見を積極的に受けケアに活かす。

③ 災害時の対応をスムーズに行うことができるような体制づくり

- ・ 日中夜間想定避難訓練実施（年2回）及び図上訓練を行う。
- ・ 水害を想定した避難計画の作成と訓練を実施する。
- ・ 防災備品の設置及び周知し、災害時に備える。
- ・ 相互協定に基づき、避難訓練時に地区住民の方に参加していただく。

(4) 施設・設備整備

① 設備・備品の点検と管理、修繕の迅速な対応

- ・ 開設7年が経過、設備や備品の不具合の早期発見、早期改修を実施
- ・ 重要な設備に対して保守契約も検討する。
- ・ 災害発生時の事業継続に必要な整備

② 介護ロボット等導入の研究・検討

- ・ 介護従事者の業務改善や負担軽減につながる、介護ロボット等の導入を引き続き検討する。

(5) 地域連携・社会貢献

① 「あやせ日和」・ホームページを利用した情報発信を行う

- ・ 毎月発行の広報誌の中身を充実させ発信、ホームページを活用し、行事や出来事を情報発信していく。

② コロナ禍における地域連携・地域貢献を検討

- ・ コロナ禍でも安全に繋がれる地域貢献活動を検討
- ・ 実習生の受け入れを積極的に行う。
- ・ ボランティアの受け入れを積極的に行い、ご利用者の生活（ケア、余暇活動）

に活かす。

- ・ 生き生き健康大學の再開により地域の介護予防活動に貢献する。
- ・ 地域自治会での介護教室の計画と開催

(6) 経営管理

① 安定的な事業経営

- ・ 各事業における目標稼働率の達成を目指し、月末状況の分析、改善計画を立てる。
(特養 95.0%、ショート 50%、デイ 50%、居宅 64件)

② 選ばれる事業を目指す

- ・ 特養：待機者名簿の再確認と先手を打った空床管理
- ・ ショート・デイ：多様な利用者に対応できるためのケアの質向上
- ・ 自分たちの強みを理解し営業活動を進めていく。

③ 加算取得の分析

- ・ 目標達成に向けた改善計画、加算要件の確認を行い取れる加算がないかの検討

5. 新規事業
なし

6. その他